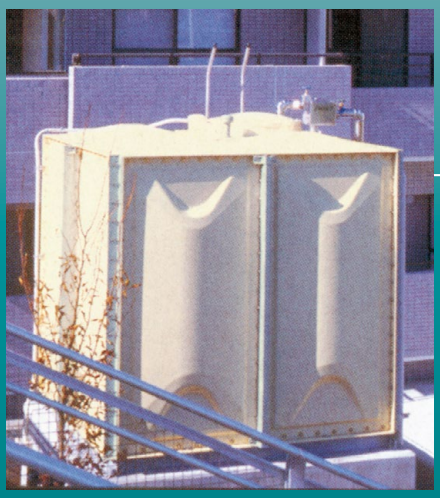
Basic & New
NIPPON PAINT

Fine Silicone Fresh Ⅱ

貯水槽の藻の発生を抑えます

ファインシリコンフレッシュⅡは、FRP製貯水槽外面に塗装するだけで、
藻の発生条件である太陽光線を遮断し、藻の発生を抑制します。



超低汚染形ターペン2液形アクリルシリコン樹脂塗料

ニッペ ファインシリコンフレッシュ®Ⅱ
Fine Silicone Fresh Ⅱ

FRP貯水槽外面塗装システム

ホルムアルデヒド放散等級
F☆☆☆☆

弱溶剤／遮光塗料

ニッペ ファインシリコンフレッシュⅡ

■標準塗装仕様　●FRP部、鉄部および亜鉛メッキ部

工　程	塗　料　名	塗り回数	使用量 (kg/㎡/回)	塗り重ね 乾燥時間(23℃)	希釈剤	希釈率 (%)	塗装方法
下地調整	サンドペーパー(P240～P320)で表面をペーパーがけした後、溶剤拭きにより被塗面を清浄とする。						
下　塗　り	ハイポンファインプライマーⅡ (弱溶剤形2液エポキシさび止め塗料)	1	0.16～0.18	4時間以上 ※1 7日以内	塗料用シンナーA	0～10	はけ・ウールローラー
						0～5	エアレススプレー
上　塗　り	ニッペファインシリコンフレッシュⅡ	2	0.12～0.14	4時間以上	塗料用シンナーA	0～10	ウールローラー
						5～10	エアレススプレー

※上記の各数値は、すべて標準のものです。被塗物の形状、素地の状態、気象条件、施工条件によりそれぞれ多少の幅を生じることがあります。
※塗料の塗り重ねは所定の塗り重ね乾燥時間を守ってください。(縮み、割れ、乾燥不良、付着不良などが起こります。)
※1)夏場(高温下)では、硬化反応が著しく速まるため、上塗りを3日以内に塗り重ねてください。塗り重ね時間を過ぎると、上塗りとの密着性が悪くなります。
その場合は、再度下塗りを塗装するか、ペーパーをかけるなどしてください。

■荷　姿

塗　料　名	色　相	つ　や	容　量	塗料液:硬化剤 混合比(重量比)	使用量 (kg/㎡/回)	2回塗りでの1缶当たりの塗り面積 (㎡/回/缶)	ポットライフ (23℃)
ファインシリコンフレッシュⅡ	各色	つや有り 3・5・7分つや有り	16kgセット 塗料液 14kg 硬化剤 2kg	7:1	0.12～0.14	57～66（16kg）	6時間
			3.2kgセット 塗料液 2.8kg 硬化剤 0.4kg			11～13（3.2kg）	

Fine Silicone Fresh Ⅱ

貯水槽の藻の発生を抑えます

水道水に含まれている緑藻、藍藻、珪藻などの微細藻類は太陽光線により光合成を繰り返し増殖するといわれていますが、FRP製貯水槽ではFRP素材を通して太陽光線が貯水槽内に入り微細藻類の増殖の原因になります。ニッペファインシリコンフレッシュⅡFRP貯水槽外面塗装システムは、FRP製貯水槽外面に塗装するだけで藻の発生条件である太陽光線を遮断し、藻の発生を抑制します。※

※ 下塗りおよび上塗りともに規定の使用量をおまもりください。使用量が不足すると遮光性能が低下しますのでご注意ください。なお、塗装することにより太陽光の透過を完全に遮断するものではありません。一部の太陽光が透過していても規定の使用量がまもられていれば、十分に藻の発生の抑制効果が得られます。

特　長

1 太陽光線の遮断効果にすぐれています。

エポキシさび止め塗料「ハイポンファインプライマーⅡ」と
耐久性にすぐれた「ファインシリコンフレッシュⅡ」との組み合わせにより
太陽光線を効果的に遮断することができます。

2 高耐候性を有します。

強固なシロキサン結合により光沢低下や変色が極めて少なく
高耐候性を発揮します。

3 超低汚染性を有します。

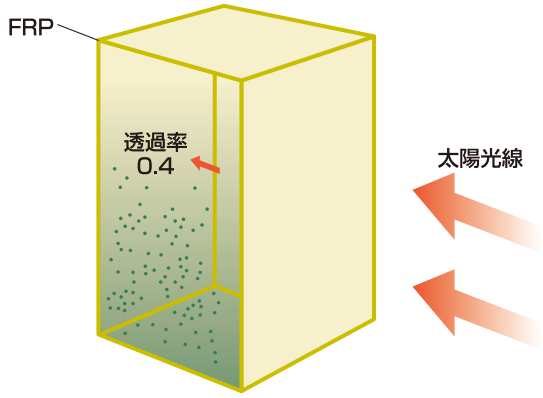
セラミック成分による親水化技術により、すぐれた
汚染性を実現します。

4 鉄部面への防食性にすぐれています。

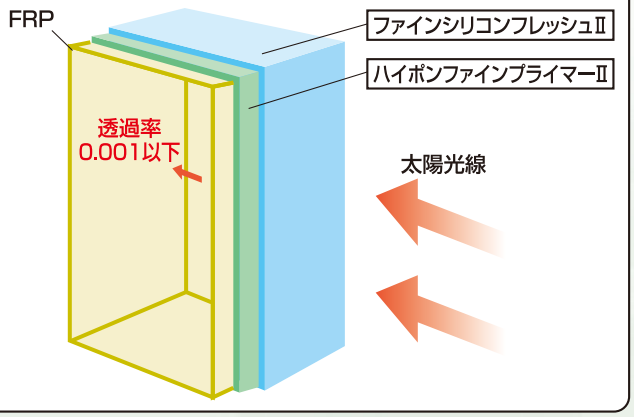
下塗りに弱溶剤2液のエポキシさび止め塗料「ハイポンファインプライマーⅡ」を
使用するため、貯水槽付帯部などの（鉄部面）に対する防食効果があります。

「ファインシリコンフレッシュⅡ」の太陽光線遮断効果

経年劣化した塗膜の場合



ファインシリコンフレッシュⅡ施工の場合



※光透過率：＝ 光の透過量 / 光の照射量 ×100

太陽光線の透過率（%）

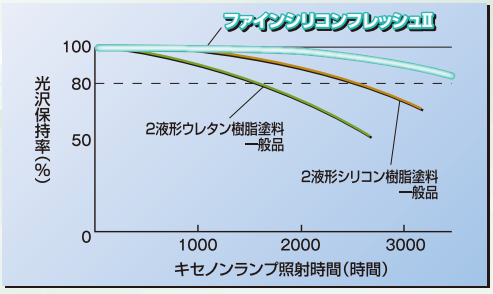
波　長(nm)	FRP素材のみの光透過率	ファインシリコンフレッシュⅡを塗装したFRPの光透過率
300	0.000	0.000
400	0.171	0.000
500	0.488	0.000
600	0.610	0.000
700	0.760	0.000
800	0.928	0.000

上記の様にニッペファインシリコンフレッシュⅡFRP貯水槽外面塗装システムにより、太陽光線を効果的に遮断することができます。
光がなく、かつ有機物もない条件では藻は増殖することはできません。　※色相はホワイトで測定

高耐候性
～耐候性試験B法（JIS A 6909 複層仕上塗材の耐候性品質）～

劣化促進機「ウェザーメーター（キセノンランプ）」で、照射時間に対する光沢保持率を測定。ニッペファインシリコンフレッシュⅡは「耐候形1種※」の基準を上回る結果を示し、特に耐候性にすぐれた塗料といえます。

【高耐候性比較データ】

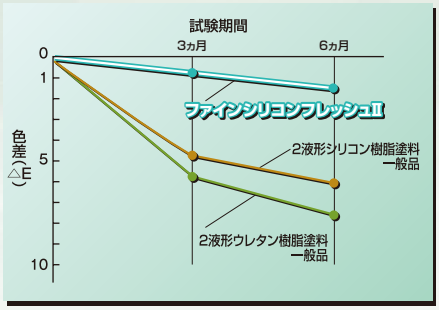


※照射時間2500時間で光沢保持率80%以上:「耐候形1種」
照射時間1200時間で光沢保持率80%以上:「耐候形2種」
照射時間600時間で光沢保持率80%以上 :「耐候形3種」

超低汚染性
～雨だれ汚染暴露試験～

屋外にて塗板を暴露し、雨筋状の汚れのつく程度を目視により測定。
試験開始6ヵ月後では、他社超低汚染形塗料と比べて雨筋状の汚れが少ないことがわかります。

【超低汚染性比較データ】



※△Eの数値が小さいほど、耐汚染性にすぐれていることを示しています。
※建物の構造によっては低汚染性が発揮されにくい場合があります。

注意点

- 本商品は、すぐれた性能を発揮させるために、非常に敏感で強固な反応をするように設計されています。
  水やアルコール類が、塗料液や硬化剤に混入しないようにしてください。
  また、空気中に含まれる水分や湿気とも敏感に反応します。必ず密栓し、冷暗所に保管してください。マスカーなどの封では不十分です。
- 長期間の保管（6ヶ月以上）は避けてください。また、開栓後はなるべく早く使い切ってください。

ニッペ ファインシリコンフレッシュⅡ

●施工上の注意事項（詳細な内容については、各製品の製品使用説明書などにてご確認ください）

1. 「3～7分つや有り仕上げ」の場合、上塗りの１回目に「つや有り」、２回目に「3～7分つや有り」をご使用ください。
2. 本塗料は、優れた性能を発揮させるために、非常に敏感で強固な反応をするように設計されています。水やアルコール類が混入しないようにしてください。また空気中に含まれた水分や湿気とも敏感に反応します。必ず密栓し、0℃～ 40℃未満に保てる冷暗所に保管してください。
3. 塗装場所の気温が5℃未満、もしくは湿度８５%以上である場合、または換気が十分でなく結露が考えられる場合、塗装は避けてください。
4. ＦＲＰ、塩ビに直接塗装する場合は、下地調整(目粗し)を実施してください。厚肉硬質塩ビなど素材の種類により非常に付着し難い素材の場合がありますので、あらかじめ試験塗装を実施し付着性を確認してください。
5. 脆弱層が下地調整で除去しきれない場合や劣化の著しい下地の場合は適用を避けてください。また、吸込みの大きい下地への施工に際しての、使用量は濡れ感が出るまでを目安にし、必ず試験施工にて付着性を確認してください。
6. 塗料液と硬化剤の混合は、電動攪拌機などで均一になるまで行ってください。
7. 貯水槽などで藻の発生を抑制するために遮光性能を必要とする場合は、下塗りおよび上塗りともに規定の使用量をおまもりください。使用量が不足すると遮光性能が低下しますのでご注意ください。なお、塗装することにより太陽光の透過を完全に遮断するものではありません。一部の太陽光が透過していても規定の使用量がまもられていれば、十分に藻の発生の抑制効果が得られます。
8. つや調整品では、はけ、ローラーでの塗装はむらが出やすくなりますので、スプレー塗装をおすすめいたします。
9. つや調整品では、塗り継ぎや補修でつやむらが出やすいので、面を切って通しで塗装してください。
10. 過剰希釈をすると本来のつやが発現しないおそれがありますので、規定の希釈量をまもってください。
11. つや調整品は被塗物の形状、素地の状態、膜厚、色相、塗り重ね乾燥時間などにより、実際のつやと若干違って見える場合がありますので、事前に試し塗りをして確認してください。
12. つや調整品は、使用中にも塗料液が分離しやすい場合がありますので、適宜かくはんしながらご使用ください。
13. 防藻・防かび効果は、繁殖を抑制するものです。すでに繁殖している場合は、下地処理として除去および殺菌処理をしてから塗装してください。
14. 被塗物の構造、部位、塗装仕上げ形状、環境条件などの影響で、本来の低汚染機能が発現されない場合があります。
15. 塗装面を部分補修する際には、硬化剤の入れ忘れにご注意ください。汚染むら発生の原因になります。
16. 溶剤系塗料のため、室内での塗装は必ず換気をしてください。また、外部での塗装においても、換気口・空気取入口などに養生を行い、溶剤蒸気が室内に入らないように注意してください。居住者へのご配慮をお願い致します。
17. 所定のシンナー以外を使用したり、薄めすぎるとつや引けやダレ、かぶり不良などをきたす原因になりますので、必ず所定のシンナーおよび希釈率をまもってください。
18. 硬化が不十分な場合は、シンナーで再溶解する場合があります。
19. 水、アルコール系溶剤の混入は絶対に避けてください。
20. 硬化剤は湿気で硬化しますので密栓して貯蔵してください。
21. 塗料を扱う場合は、皮膚に付着しないようにご注意ください。また、蒸気やミストなども吸い込まないように十分にご注意ください。
22. 塗膜の乾燥過程で水分の影響を受けた場合(高湿度、結露、降雨など)、塗膜表面が白化するおそれがあります。水分の影響を受けるおそれがある場合は、塗装を避けてください。
23. 旧塗膜が塗料用シンナーで容易に溶解するつや有り塗料の場合は、縮みや膨れが発生するおそれがあるため、塗装は避けてください。弱溶剤１液形塗料や水性塗料での塗り替えをお奨めします。
24. 旧塗膜に発生した藻・かびは、洗浄などで必ず除去し、清浄な面としてください。付着阻害をおこすおそれがあります。
25. 既存塗膜のはく離個所は、既存塗膜の塗装仕様でパターン合わせを行ってください。
26. 改修工事にご使用の場合は、旧塗膜の種類によっては溶剤などの影響により、旧塗膜を侵し溶剤膨れや縮みなどの異常が発生する場合がありますので、旧塗膜の種類をご確認のうえ、塗装仕様をご検討ください。
27. シーリングの上に、劣化、ひび割れなどの損傷がある場合は、打ち直しをしてください。
28. タイル面の洗浄に使用する薬剤が塗装面に付着すると、変色や早期劣化などを生じることがありますので、この様な場合には薬剤が付着しない様に塗膜面の養生を行なってください。
29. 旧塗膜の種類が不明の場合には必ず試験施工で適性を確認してください。
30. 表面のごみ、ほこり、エフロレッセンス、レイタンスなどは除去し、目違い、ジャンカ、コールドジョイントなどは、樹脂入りセメントモルタルで平滑にしてください。
31. 塗料液と硬化剤の混合割合は、必ずまもってください。混合割合が不適切な場合、塗膜性能が発現されなかったり、仕上がりや作業性が低下することがあります。
32. 屋外の塗装で降雨、降雪のおそれがある場合、および強風時は塗装を避けてください。
33. 塗装時および塗装後に密閉しますと乾燥が遅れますので、換気を十分に行ってください。
34. 塗装時および塗料の取り扱い時は、換気を十分に行い、火気厳禁にしてください。
35. 飛散防止のため必ず養生を行ってください。
36. 笠木、天端など長時間水が滞留する個所では塗膜の白化、膨れなどが発生する場合がありますので、養生シートの設置方法などに配慮し、換気を促してください。
37. 薄めすぎは隠ぺい力不足、仕上がり不良などが起こるため規定範囲を超えて希釈しないでください。
38. 上塗りに冴えたイエロー、レッド、ブルー、グリーン系色相を使用する場合は、共色を下塗りしてから塗装してください。なお、特に冴えた色相では、共色を下塗りしても標準の使用量、塗装回数で隠ぺい出来ない場合があるため、事前に試験施工塗り板等でご確認ください。
39. 濃彩色や冴えた原色の場合、塗膜を強く擦ると色落ちすることがあります。衣類など接触する可能性のある部位には使用しないでください。なお、状況により常時接触するような個所に使用する場合は、ファインシリコンフレッシュクリヤーを上塗りに塗装してください。クリヤーのローラー及び刷毛塗装で、下塗り塗膜の再溶解や滲みが発生する場合には、スプレー塗装をしてください。
40. 濃彩色を塗装する際には、つやむらが目立ちやすくなるおそれがありますので、事前に試し塗りをしてご確認の上、ご使用ください。
41. 大面積の塗装では補修部分が目立つことがあります。使用塗料のロットは必ず控えておき、補修の際は塗料ロット、希釈率、および補修方法などの条件を同一にしてください。
42. 塗装方法により色相が多少変化する場合がありますので、ローラー塗りはできる限り入り隅まで入れてください。
43. 汚れ、きずなどにより補修塗りが必要な場合があります。使用塗料のロットは必ず控えておき、補修の際は塗料ロット、希釈率、および補修方法などの塗装条件を同一にしてください。
44. クロスの上の塗装は避けてください。
45. ローラー、はけなどは、ほかの塗料での塗装に使用すると、はじきなどが発生するおそれがありますので、十分に洗浄するか、専用でご使用ください。
46. 平滑仕上げや鏡面仕上げの場合は、素材や素地の状態によって、吸込みや巣穴によるピンホール、凹凸などを防止するため、パテ工程や研磨工程が必要になる場合があります。
47. 開封後は一度に使い切ってください。やむを得ず保管する場合は密栓してから冷暗所で保存し、速やかに使い切ってください。
48. 塗料は内容物が均一になるようにかくはんしてください。特につや調整品では、つや消し剤が沈降している場合がありますので、かくはん機を用いて缶底の沈降物を十分にかくはんしてご使用ください。
49. 塗料漏洩の原因になりますので、保管・運搬時に容器を横倒しにしないでください。
50. 製品の安全に関する詳細な内容については、安全データシート（ＳＤＳ）をご参照ください。

安全衛生上の注意事項（ニッペファインシリコンフレッシュⅡ硬化剤） 横倒禁止

1. 熱、高温のもの、火花、裸火及び他の着火源から遠ざけること。禁煙。
2. 容器を密閉しておくこと。
3. 容器を接地しアースをすること。
4. 防爆型の電気機器／換気装置／照明機器を使用すること。
5. 火花を発生させない工具を使用すること。
6. 静電気放電に対する措置を講ずること。
7. 粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないこと。
8. 取扱い後は、手洗いおよびうがいを十分に行うこと。
9. 屋外又は換気の良い場所でだけ使用すること。
10. 汚染された作業衣は作業場から出さないこと。
11. 環境への放出を避けること。
12. 保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。
13. 換気が不十分な場合：呼吸用保護具を着用すること。
14. 本来の用途以外に使用しないこと。
15. 気分が悪い時は、医師の診察／手当を受けること。
16. 特別な処置が必要である。
17. 口をすすぐこと。
18. 漏出物を回収すること。
19. 吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
20. 皮膚刺激又は発しん(疹)が生じた場合：医師の診察／手当てを受けること。
21. 呼吸に関する症状が出た場合：医師に連絡すること。
22. 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。
23. 火災の場合：消火するために適切な手段 . を使用すること。
24. 皮膚又は髪に付着した場合：直ちに、汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を水又はシャワーで洗うこと。
25. 容器からこぼれた時には、布で拭き取って水を張った容器に保管すること。
26. 施錠して保管すること。
27. 換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。
28. 換気の良い場所で保管すること。涼しいところに置くこと。
29. 直射日光や水濡れは厳禁。
30. 塗料等の缶の積み重ねは３段までとすること。
31. 屋外で使用する場合は、使用する場所に隣接する家屋の換気口、空気取入れ口等に目張りをするなどして、蒸気、ガス等が屋内に入らないようにすること。
32. 内容物／容器を国際、国、都道府県又は市町村の規則に従って産業廃棄物として廃棄すること。
33. 塗料、塗料容器、塗装具を廃棄する時には、産業廃棄物として処理すること。容器、塗装具などを洗浄した排水は、そのまま地面や排水溝に流すと環境に悪影響を及ぼすおそれがあるため、排水処理場などの施設に持ち込むか、産業廃棄物処理業者に処理を依頼すること。

※上記の表示は一例です。色相などにより、容器の表示とは異なる場合があります。
□詳細な内容、表示例以外の製品については、安全データシート(SDS)をご参照ください。
□本製品は日本国内での使用に限定し、輸出される場合は事前にご相談ください。

危　険	危険有害性情報
	引火性液体及び蒸気／アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ／吸入するとアレルギー、ぜん(喘)息又は呼吸困難を起こすおそれ／(気道刺激性)呼吸器への刺激のおそれ／(麻酔作用)眠気又はめまいのおそれ／長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害のおそれ／長期継続的影響によって水生生物に毒性

日本ペイント株式会社

北海道支店　☎011-370-3101
東北支店　☎022-232-6711
関東支店　☎03-5479-3614
北関東信越支店　☎03-5479-3614
中部支店　☎052-461-1960
近畿支店　☎06-6455-9320
中国支店　☎082-281-2180
四国支店　☎0877-56-2346
九州支店　☎092-751-9861

●本カタログの内容については予告なしに変更する場合がございますのであらかじめご了承ください。
●本カタログ中の製品名・会社名は、日本ペイントホールディングス株式会社または日本ペイント株式会社・その他の会社の、日本およびその他の国の登録商標または商標です。
●©Copyright 2022 NIPPON PAINT Co.,LTD. All rights reserved.

●日本ペイントホームページ https://www.nipponpaint.co.jp/

カタログNo.
NP-A052
TY221102T
2022年11月現在